

◆全体会

今大会の全体会は、マリンメッセ福岡にて開催されました。福岡県立朝倉高校音楽部・吹奏楽部によるアトラクションから始まった開会式では、永原譲太郎大会会長の挨拶をはじめ、小川洋福岡県知事および佐藤秀行日本PTA全国協議会会長に祝辞をいただきました。次に表彰式では、PTAに尽力された団体・個人のみなさまに永原会長より表彰状と感謝状が贈呈されました。

また大会シンボルマーク作者の新崎美也さんにも感謝状が贈呈されました。続く全体会では、廣瀬啓大会副実行委員長より大会宣言（案）と5つの決議（案）が提言されました。平成から令和へと新たな時代を迎え、現在子どもたちや家庭を取り巻く社会情勢の急激な変化の中で、いじめやインターネットに関するトラブルなど解決が容易でない問題に向き合っていくには、まず大人たちが子育てを通じて自ら学び子どもと共に成長する必要がありますと宣言されました。「高めよう親力（おやぢから）」をスローガンとした本大会にて、「心豊かな家庭



◆第2分科会

第2分科会は研修、啓発活動を研究領域に【**気つく親力**】【**気軽に参加でき気つきを得られる研修・啓発活動**】を討議題に「ザザンクス筑後」において行われ、参加者は約700人でした。

討議の柱は①親力を高めるための研修とは・②気軽に参加したくなる研修会の開催、でした。学んだことを伝える研修会、魅力ある研修会の開催が提案され、学びながら伝え生かすことが「親力」を高める、という趣旨で2つの提案がありました。

はじめに北九州市立花尾小学校PTA会長より提言がありました。PTAは子どもたちと一緒に日々成長する「共育」を念頭に、日頃の活動を重視し目的を持つたPTA活動が実践されている様子がよくわかりました。地域の方々

も交えた理事会の開催、楽しく参加できる「親子ふれあい研修」、親子での学校清掃、地域の方々との交流活動、さらに朝の交通安全及び挨拶運動も積極的に行われており活発な活動の内容がわかりました。「自律」「コミュニケーション能力」「問題発見及び解決能力」の3つを保護者も子どもたちと一緒に考えて高めていくことが大切であり、子どもたちの自己肯定感を育み、家族や学校地域に誇りを持ち積極的に勉強や運動に取り組むことを考えながらPTA活動を行うことが不可欠との強い意思を感じました。

次に宮崎県高千穂町立高千穂中学校のPTA副会長からの提言は、気軽に参加でき気つきを得られる研修のあり方についてでした。「ふれあい学級」の実践や成果、課題について紹介されましたが、ふれあい学級では講師を「身近で特技をもっている人」という視点で人選するため、保護者や卒業生の保護

舞さんにも感謝状が贈呈されました。続く全体会では、廣瀬啓大会副実行委員長より大会宣言（案）と5つの決議（案）が提言されました。平成から令和へと新たな時代を迎え、現在子どもたちや家庭を取り巻く社会情勢の急激な変化の中で、いじめやインターネットに関するトラブルなどを防ぐためには、まずは大人たちが子育てを通じて自ら学び子どもと共に成長する必要がありますと宣言されました。「高めよう親力（おやぢから）」をスローガンとした本大会にて、「心豊かな家庭

づくり」「保護者の資質向上」「地域社会づくり」「PTA活動の活性化」「いじめ撲滅」の5つの決議が全会一致で採択されました。全体会後には、国立青少年教育振興機構の鈴木みゆき理事長と「ビリギャル」こと小林さやか氏による「親力を更に高めて、子どもたちの未来を創造しよう」という講演が行われ、フィナーレには「湘南の風」メンバーの新羅慎二氏によるスピーチライブが行われ、参加者全員がONE TEAMとなり大盛況にて閉会となりました。一日間にわたり、子どもたちが子育てを通じて自ら学び子どもと共に成長する必要があると宣言されました。「高めよう親力（おやぢから）」をスローガンとした本大会にて、「心豊かな家庭

(豊田小学校副会長 楠本良二)



◆第6分科会

10/26(土)
・27(日)

第6分科会は人権教育・特別支援教育を研究領域に【**共に生きる親力**】「他者を思いやり自分を好きになる子

どもを育てる」を討議題に、八女市「おりなすハ女」で行われ、参加者は約600人でした。

討議の柱は、①多様性を認め合つ取り組み、②子どもの自尊感情を高めるには、でした。このつから、個性(多样性)を認め、双方を思いやる心、共に生きる「親力」を培うことで、子どもたちの自尊感情を高めるためにどうすべき

かが討議されました。

はじめに、諫早市飯盛東小PTA会長より、支援学級に対する単Pの取り組みについて提言がありました。支援学級の活動に対してPTA役員が関わり、下支えをすることで、支援学級の子どもや悩み・不安を抱えるその保護者との繋がりが生まれ、支援学級以外の保護者にも理解が広まり、

そして、我が子の困り感を抱える保護者と一緒に、外部からの講師も呼んでの子育て勉強会を実施、支援学級だけでない広がり・繋がりが生まれた

との助言がありました。

次に、霧島市横川中PTA会長より、PTA活動の中で家庭教育学級の工夫で人権問題をうまく取り上げ、地域活動につなげているという提言でした。独自で行っている家庭教育学級には地域

の保護者にも理解が広まり、

そして、我が子の困り感を抱える保護者と一緒に、外部からの講師も呼んでの子育て勉強会を実施、支援学級だけでない広がり・繋がりが生まれた

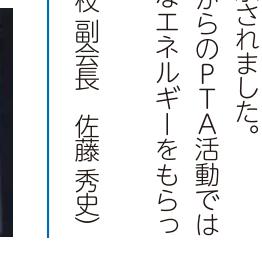
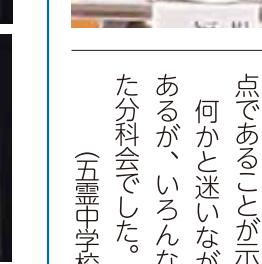
との助言がありました。

指導助言者からは、PTA活動は「まつわ」があるべき姿、つまり「学び合い、繋がりあり、わかり合い」であり、「これを見事に実践しているとの評価でした。また、これらを持続可能にしていくことで、インクルーシブなPTAへ発展していくことが目標である

との助言がありました。

次に、霧島市横川中PTA会長より、PTA活動の中で家庭教育学級の工夫で人権問題をうまく取り上げ、地域活動につなげているという提言でした。独

自で行っている家庭教育学級には地域



(五郷中学校副会長 佐藤秀史)

という報告でした。

定型発達圏のお子さんがいる保護者に対して、非定型発達圏のお子さんを理解していただくことは困難で、各地域の支援学級・学校でも大きな課題であります。

が進んだというフロアーからの発表もありました。

指導助言者からは、PTA活動は「まつわ」があるべき姿、つまり「学び合い、繋がりあり、わかり合い」であり、「これを見事に実践しているとの評価でした。また、これらを持続可能に

していくことで、インクルーシブなPTAへ発展していくことが目標である

との助言がありました。

指導助言者からは、PTA活動は誰のため、何のために行つていくのかと、投げかけられました。「人」のためには「為す」とことは「偽」になってしまふ。「自らのために為す」ことが子どもへの理解が生まれ、支援学級以外の保護者にも理解が広まり、

そして、我が子の困り感を抱える保護者と一緒に、外部からの講師も呼んでの子育て勉強会を実施、支援学級だけでない広がり・繋がりが生まれた

との助言がありました。



この項目として広報の仕方等があるということでした。アンケートを実施したこととで参加者の気付きや思いが多く見いだされました。

最後に地域や学校の特色は様々であるが子どものよりよい健康や成長を祈つてPTA活動が行われており、「親力」の底力を發揮できるのもPTA活動

でした。

この項目として広報の仕方等があるということでした。アンケートを実施したこととで参加者の気付きや思いが多く見い